市民が主役 花のまち ふかや

人がつながる＊花でつながる

『ガーデンシティふかや構想』を推進して、今年で10年目を迎えました。花の生産地としての特徴を生かし、市民の力で花のまちづくりを進めてきました。
今月号では、その『花のまち ふかや』の10年の軌跡をたどります。

10年の歩み

平成15年
市の特産である花を生かした取り組みができないか、調査・研究を進める。また、花のまちづくりを実施している市町村で構成された『ガーデニングサミット連絡協議会』に参加し、他市町村の取り組み状況を学ぶ。

平成16年
2月にガーデンシティふかや構想を策定し、ガーデンシティふかや推進室を設置する。
市内でお庭がきれいな家を調査・訪問し、ガーデンシティの取り組みを説明。イギリスなどで人気のオープンガーデンの活動に興味を持った皆さんが集まり、市民ボランティア団体『深谷オープンガーデン花仲間』を結成。5月に深谷オープンガーデン花仲間主催による初のオープンガーデンフェスタ（22軒）が開催される。10月には全国ガーデニングサミット、第1回ふかや花フェスタ、第2回オープンガーデンフェスタ（39軒）が同時開催される。
※平成17年以降、ふかや花フェスタ&オープンガーデンフェスタは毎年4月に開催される。

平成20年
樹木などの研究施設であった埼玉県農林総合研究センターの跡地に、市民がつくり、市民が守り育てる、市民の森『ふかや緑の王国』を建国する構想を2月に発表する。

平成21年
2月にふかや緑の王国を建国、建国祭を開催する。ふかや緑の王国が、花や緑に関するボランティア団体の活動拠点となる。

平成23年
先進的で独創的な取り組みが高く評価され『全国花のまちづくり地方大会』の開催地として、深谷が推薦される。

平成24年
市民ガーデニングボランティアの活動やアダプト団体の活動、ふかや学校花はなプラン、オープンガーデン、ふかや緑の王国など、市民と市が取り組んできた事業が評価され、10月に第22回全国花のまちづくりコンクールで花のまちづくり大賞（農林水産大臣賞）を受賞する。

▲アダプト団体の活動

花づくりから花があふれるまちへ

ユリの切り花が全国1位、チューリップが全国2位の農業産出額を誇るなど、深谷は花の産地として全国トップクラスです。しかし、これらはビニールハウスで栽培され、市民の皆さんの目に付くことなく、全国に出荷されています。

「深谷の特産である"花"をもっとPRできないだろうか。単なる花いっぱい運動ではなく、ガーデニングをキーワードに真のまちづくりをしたい」と、ガーデンシティふかや構想の取り組みを平成16年に始めました。

市民が主役

市がお金をかけて花いっぱいにしても、心はつながりません。心がつながらなければ、まちへの愛着も生まれません。そのため、ガーデンシティの取り組みは、市民の皆さんが自ら考え、自ら行動する、まさに『市民が主役』で進められています。花が好きで集まった皆さんがボランティアとして、さまざまな形で活動していて、その代表的なものが次の5つです。

1 市民ガーデニングボランティア
深谷駅前をはじめ、市内6か所でガーデニング活動をしています。登録者は100人を超え、楽しみながら取り組んでいます。※9ページで紹介しています。

2 ふかやアダプトプログラム
公共用地を市民のかたに貸し出し、管理していただく制度です。30団体が活動し、地元住民によるミニ公園づくりも行われています。

3 ふかや学校花はなプラン
学校と地域が一体となって子どもたちを育てようという趣旨で始まり、地域のガーデニングボランティアが子どもたちと一緒に花壇作りを行っています。

4 オープンガーデン花仲間
87人の会員のかたがお庭を公開しています。県内外からも多くのかたが訪れ、中には東北や九州から見学に来るまでになっています。

5 ふかや花フェスタ
深谷の風物詩となった春の祭典。市民の手で美しくなった深谷を多くのかたに見てもらおうと始まりました。関東一円から約8万人のガーデニングファンが訪れる大盛況のイベントです。

▲市民の皆さんが楽しく活動しています

市民の力によって、現在では、深谷は花のまちづくりの先進地へと成長しました。これからも、花の魅力と市民の力で、深谷を元気にしていきましょう。